

★今週の聖句

| | |
|--|----------------|
| 「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」 | ルカによる福音書 24:32 |
|--|----------------|

★ねらい

悲しみの中にいる弟子たちを助けて下さったイエス様を心に留め、聖書の言葉を聞き、パンを裂く集いの中にいつも復活したイエス様が共にいてくださることを覚える。

★ 説教作成のヒント

「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体・・・」は旧約聖書全体がメシアの苦しみと栄光について述べているということ。

「一緒にお泊まりください」の「泊まる」は「とどまる」とも訳される言葉。

★ 豆知識

弟子達がイエス様に気づいたのは「パンを裂いた時」であった。五つのパンを大群衆に分け与えたとき(9章16節)も、最後の晩さんのとき(22章19節)もイエス様は同じようにされた。エマオ村は、エルサレムから11km (=60スタディオン)ほどの距離。

★説教

夜、外を歩く時に必要なものはなんでしょうか。キャンプなどで肝試しをする時に懐中電灯、灯りを持っていきますね。暗い時には灯り、心が暗い時には希望が必要です。

今、イエス様の弟子の二人はとぼとぼとエマオという街に向かって歩いています。イエス様が十字架で殺されてしまい、悲しみの中で心の中は真っ暗です。自分では心に灯りを灯すことができません。この二人の弟子たちに、希望の火を燃え上がらせるために、復活されたイエス様ご自身が近づいてこられます。弟子たちは悲しみで心の目が遮られていたのでイエス様だと分かりませんでした。それとイエス様はとても自然な様子で私たちと共に歩んでくださるのです。私たちが悲しい時もイエス様はいつも一緒に歩んでくださっていますが、なかなか気づきません。

一緒に歩きながらイエス様の話を聞いていると弟子たちの心は少しずつ燃えてきました。そして、宿屋でイエス様が感謝してパンを裂かれた時、最後の晩餐、十字架にかかれる前にされていたこと、約束されていたことを思い出しました。教会の聖餐式はイエス様が弟子たちとわたしたちに残して下さった約束なのです。悲しい時、心が暗くなるような時にも一緒にいるという約束、希望の光をあなたたちに灯すという約束なのです。

弟子たちがこの旅人がイエス様その人であったことを悟った時、もうイエス様はおられません。そこで弟子たちはどうしたのでしょうか。もう一度悲しい思いに戻ってしまったのでしょうか。そうではありません。弟子たちの心は希望に燃えていたので、もう大丈夫です。「さあ、行こう」と行って歩み出しました。心が闇に閉ざされる時、それは絶望の始まりではなく、希望の主に出会う始まりの時です。イエス様が一緒にいてくださり、私たちの心の目を開き、希望の火を灯してくださることを覚え、どんな時も安心して歩んでいきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 1 5 A (B) 番

5 4 番 (改訂版)

やってみよう

燃える心を書こう

材料

- ・色画用紙(赤)
- ・クレヨン、マジック
- ・ハサミ

お弟子さんたちはイエス様からお話を聞いたとき「心が燃えていた」と話しています。皆さんも心が燃えることを考えて見ましょう。そして色画用紙(赤)を炎の形に切って、そこに自分の心が燃えることを書いてみましょう。

①色画用紙(赤)に炎の絵を描き、切り取ります。

②自分の心が燃えることを書きます。

話してみよう

- ・話した時、なぜ2人の「心は燃えた」のでしょうか。
- ・「心が燃えた」らどんな風にしたくなるのでしょうか。

★今週の聖句

「イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。」

ルカによる福音書24:36

★ねらい

イエス様が真ん中に立ってくださること、それが喜びと平安であることを覚える。

★ 説教作成のヒント

復活したイエス様の姿は、エマオの弟子の場合は「見知らぬ旅人」の姿だったが、ここでは弟子たちからは「亡霊」（ギリシア語では「 Pneuma 」）と見られている。一人一人に違う姿で現れる方であり、Pneuma は風や聖霊を現す言葉でもあり、弟子達は意図せず、正しい捉え方をしていたことが分かる。

イエス様が手と足を見せ、魚を食べてみせることまでしたのは、ご自分が生きていることを示されるため。

★ 豆知識

イクトウスは、弧をなす二本の線を交差させて魚を横から見た形に描いたシンボルでイエス様を現すシンボルとしても用いられる。ギリシャ語では魚だが、同時にギリシャ語でイエス、キリスト、神の子、救世主の頭文字を並べたものでもある。復活されたイエス様が弟子達の前で魚を食べたことはご自分が神の子であり、救い主、イエス・キリストを現すためであったとも考えられる。

★ 説教

ずっと昔、子どもたちの間で「おはこんばんちは」という挨拶が流行りました。これはおはよう+こんばんは+こんにちはという挨拶を全部まとめた挨拶でした。イスラエルの国では挨拶が朝も昼も夜も寝る前も「シャローム」という挨拶なんです。

まだ復活されたイエス様と出会っていなかった弟子たちは不安で一杯でした。家の中に閉じこもっていると、イエス様ご自身が現れ、彼らの真ん中に立って「あなたがたに平和があるように」と言われるのです。この言葉は「シャローム」というヘブライ語です。日本語に訳すと色々と訳すことができる言葉なんです。「おはよう」、「平安があるように」そして何よりも「わたし、主と一緒にいる」という意味に受け取ることができる言葉なのです。「シャローム」は「神が共にいる」という意味です。イエス様のこの挨拶は「もうあなたは一人ではない」、心配しなくていい、一緒だという言葉なのです。イエス様の名前、インマヌエルという名前は「神は我々と共におられる」という意味ですから、イエス様は生まれた時から、復活の後まで、初めから終わりまで、そしてこれからも一緒にいるという約束をしてくださるのです。十字架の出来事からの三日間、寂しかっただろう、心細かっただろう。でも、もう心配しなくていい。あなたと一緒にいる。それがイエス様の「シャローム」という挨拶であり、今、まさに私たちにも語られているでしょう。

そして疑うのではなく、信じなさいとイエス様は言います。疑うことは「ぐずぐず考える」という意味です。良く考えることは大切なことですが、私たちに大事なものは親や先生を信頼して一緒に歩むように、イエス様を、その愛を信頼して歩いていくことです。昨日も今日も明日もイエス様は「シャローム」と良いながら私たちの真ん中にいてくださいます。一緒に歩いてくださいます。自分の内にイエス様が生きてくださっていることを信じて、不安を覚える時でもイエス様と一緒に歩いていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

115 B (A) 番

88 番 (改訂版)

やってみよう

平和を作り出す人々を作ろう

材料 ・長い紙 ・鉛筆、クレヨン、マジック ・ハサミ

イエス様は「あなたがたに平和があるように」といわれています。

皆さんも平和について考えて見ましょう。

そして、平和を作り出す人々を作ってみましょう。

- ①長い紙を折ります。
- ②人の形を書きます。
- ③ハサミで切り取ります。

話してみよう

- ・ イエス様が現れて、お弟子さん達はどんな気持ちだったでしょうか。
また、どんなことをイエス様に言ったと思いますか。

★今週の聖句

| | |
|---|-----------------|
| 「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。」 | ヨハネによる福音書 10:27 |
|---|-----------------|

★ねらい

羊の声を聞き分けるイエス様は私たちの声を聞いてくださる方であり、声をかけてくださる方であることを覚え、イエス様の声を聞く者として歩む。

★ 説教作成のヒント

「聞き分ける」と訳される言葉はギリシア語では「アクオー」で、普通はただ「聞く」と訳される言葉だが、ここでは他の人の声と違うものとして聞き分けるという意味で受け取られている。「聞く」には「聞き従う」の意味もあり、イエス様に聞き従うことの大切さへとつながる。「知る」はただ単に知識として知っているというのではなく、むしろ、両者の深いつながりを表す言葉として用いられている。

★ 豆知識

人間は旧約でも新約でも羊に例えられてきたように、人間と羊には共通点に思える部分がある。羊は群れを作って生活し、群れから引き離されると多大なストレスを受けることから、一人では生きていくことの出来ない人間や人間社会と似ていたり、弱い動物だと言われたり、視力が悪く、近視であることが一つの理由で先導者について行く性質がある。そのくせ臆病でちょっとした物音などに敏感で、びっくりすると散り散りに逃げてしまい、道に迷うほど方向音痴。それでも自分の道を行こうとする姿は知ったかぶりであり、プライドの高い人間に似ている。

★ 説教

私たちの周りにはたくさんの音があります。いい音、悪い音、色々です。たとえば、電車が来る時に知らせてくれる音があります。車の急ブレーキの音はできれば聞きたくない音ですね。これは優しい音、これは危ない音、色々聞き分けられると思います。それだけではなく、親の声や自分を呼んでくれる声、名前も聞き分けられますね。

羊はとても可愛い生き物ですが、それだけでは生きられない存在の代表例です。視野がせまく、鼻先しか見ていません。草をはむときも、すぐ隣の葉っぱも目に入らないくらいです。群れを動き、全体を誘導する羊飼いがいないと、危険な所に迷い込んでオオカミなどの餌食になってしまいうこともあります。一匹の羊が間違えて水のない川に向かって歩いていくと全体が入って行ってしまったりします。自分たちでは間違いに気づかない。羊飼いのように導いてくれる存在が必要なのが羊なのです。

イエス様はご自分と私たちの関係を羊飼いと羊と言われます。私たち人間はしっかりしているように見えても神さまの目から見れば、羊のように「弱く、傷つきやすい存在であり、自分の力で歩もうとすると間違った方向に進んでしまう」存在なのでしょう。羊も私たちも一匹一匹は弱く、力がない存在です。でも、そんな羊が安心して歩めるようにイエス様は導いてくださいます。

声をかけて良い方向へと連れて行ってくださいます。

羊飼いであるイエス様は何百匹という羊の顔は同じに見えても、それぞれ一匹一匹の特徴をすべて知っており、その状態をいつも気にしている羊飼いです。あなたの名前も私の名前も知って呼んでくださいます。私たちの弱さを知り尽くしてなお私たちのために命を捨てて守ってくれる羊飼いです。その羊飼いの声に聞き従えば安心して歩いていくことができるのです。ただイエス様の声を聞いていてもついて行かなくては良い方向へはいけません。神さまとのつながりを大切にして羊飼いいエス様の後に従いましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

4 9 番

1 2 4 番（改訂版）

やってみよう

羊を作ろう

イエス様は「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」と言ってくださいました。

その羊を作ってみましょう。

材料

- ・画用紙
- ・鉛筆、マジック、クレヨン
- ・ハサミ
- ・綿（手芸用）
- ・木工用ボンド（手芸用ボンド）

①画用紙に羊の絵を書き、切り取ります。

②羊の体の部分に木工用ボンドを使って綿を貼ります。



話してみよう

- ・「わたしの羊」とは誰のことでしょうか。

★今週の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 13:34

★ねらい

イエス様からの「わたしは去っていくが何かが残る」という約束がされている。互いに愛しあうこと、それもイエス様がされたように神さまの愛を実現していくことだと覚える。

★ 説教作成のヒント

この章は受難の箇所であり、はじまりのヨハネの言葉は「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(13:1)。人間を愛し続けたイエス様が世を去り、私たちに残されるのは「愛の掟」。

「互いに」愛しあうことは、愛は一方通行ではなく、人と人との間にある、深い心のつながりを表すものであるはずだからだということを示す。

★ 豆知識

「栄光」はヘブライ語で「カボード」、ギリシャ語で「ドクサ」。「カボード」の元の意味は「重さ」で、本来のニュアンスは「そのものの本当の価値」ということのようにです。「ドクサ」のほうは「外に現れた輝き」を意味する。イエス様の栄光とは重さであり、輝きだと言える。人間の栄光とは違う。

★ 説教

愛とは真心、真ん中に心があるものですよと言った人がいました。これは漢字を分解してみると愛という漢字は真ん中に心が入っているので言葉遊びでそう言ったのです。でも、真ん中とはイエス様のことですから、真ん中、心にイエス様があるのが愛なのです。

今日のイエス様の教えは「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したようにあなたがたも互いに愛し合いなさい」という愛の実践の教えです。ただ愛しあいなさい、隣人に親切にきなさいではありません。イエス様がしてくださったように、イエス様の心をもってということが大切です。「神の愛でもって接しなさい」と言われています。

どんな風にするかもイエス様はご自分の姿を通して教えてくださいました。最後の晩餐と言われる過越祭の前、イエス様は十二人の弟子たちと一緒に食事をされました。その後、十字架にかけら、弟子達のもとを去ることを知っていたイエス様は、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまといられました。そして、たらいに水をくんで弟子たちの足をふき始め、十二人全員の足を洗われます。そして、イエス様は全員の足を洗い終わられた後、このように言います。「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗いあわなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである」と。このように足を洗う行為をあなたがたがこれから行なうこ

とをイエス様は求められたのです。足を洗うこと。それは愛であり、それは仕えるということを実践的に現しているのです。足を洗うことはその家の主人の役目でしたが、その代わりに身分の低い人がしていました。人が嫌がるような働きを他の人に代わって行っていくこと、イエス様の代わりにしていくことが大事なことです。イエス様がされたように。今、この時ならイエス様ならどうされるだろうか。そのことをいつも考えながら心の中にいるイエス様に問いながら愛を実践してきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

□ 51番 (1, 2)

□ 100番 (改訂版)

やってみよう

文字迷路

キーワード 互いに愛し合いなさい

たてとよこは進めます。斜めには進めません。

ゴールを目指してください。

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------|
| | し | 愛 | い | 互 | さ | 愛 | 愛 | い | 合 | 会 | の | 互 | に | |
| | 合 | 愛 | に | い | い | し | さ | な | し | 愛 | 互 | の | め | |
| | き | し | 愛 | さ | き | 合 | い | し | 愛 | し | い | あ | 合 | |
| | さ | 合 | し | な | し | い | 互 | い | に | い | 互 | し | 互 | ←スタート |
| ゴール← | い | い | 会 | い | 合 | に | い | の | し | さ | い | 愛 | い | |
| | さ | な | い | の | し | 愛 | に | め | 谷 | な | い | 愛 | に | |
| | 合 | い | な | め | 愛 | な | の | あ | 互 | き | 合 | し | 会 | |

話してみよう

- ・ イエス様が愛してくださったようにお互いに愛しあうにはどうしたら良いでしょう。